

## 記 録

### ホームカミングデー展示の見直しについて

高 杉 洋 平

#### はじめに

広島大学文書館では、二〇〇八年第二回ホームカミングデーから、「広島大学の歴史」展と題して、広島大学の歴史や学生生活の変遷を振り返る写真展示を行ってきた。

当該展示は、来場したOB・OGが在校時代を視覚的に振り返ることができるとあり、来場者からも概ね好評を博していた。しかしホームカミングデーへの出展開始から一〇年が経過し、種々の課題も顕在化してきた。そこで、本年第一二回ホームカミングデーにおいては、従来からの写真パネル展示を継続しつつ、新機軸を導入することで、展示内容の刷新を行った。

#### 写真展示に際して生じた問題

広島大学文書館は、国立公文書館等として法人文書の管理保存を行う一方、大学史資料の収集に努めてきた。そうした館の性格上、文書

館の扱う資料のほとんどは文字資料であり、写真資料の所蔵は決して多くない。

また所蔵する写真資料は、学内の各部局において職員が撮影した記録用のスナップ写真が大半であり、撮影内容や撮影技術面でパネル展示には適さないものが多い。また撮影から年月が経過した現在と比べては、撮影年月日や被写体を十分な精度をもって特定できないものも多い。「おそらく××祭の様子を写したもの」とか「おそらく△△年撮影」といった写真ばかりでは、展示の信頼性を損なうことは言うまでもない。

以上のような問題をクリアーし、展示に耐えうる写真資料となると、その絶対数はさらに少なくなってしまうのが実情である。

他方、ホームカミングデーの参加者には、毎年継続して参加される方も少なからずおり、展示写真の選定に際しては、可能な限り未使用の写真を用い、また直近の数年間に使用したものは努めて避けるようにしてきた。しかし前述の諸条件下で、パネル展示の写真選定に新鮮味を持たせることは年毎に困難化しており、写真パネルのみの展示に

漸くマンネリ感も感じられるようになってきた。

### 展示内容の見直し

前記のような問題を踏まえ、本年第一二回ホームカミングデーから、文書館展示の見直し、刷新を行うことになった。見直しの方針として、①写真パネル展示「広島大学の歴史」展は中止せず継続し、新たな展示を追加すること、②新たな展示には文書館の広報機能を持たせること、③写真だけでなく、資料の現物展示を行うこと、④初代学長森戸辰男の生誕一三〇周年につき特別展示を実施すること、⑤展示スペースの都合上、展示規模は例年の範囲で納めること、の五点を設定し、展示計画を練り直した。

例年、文書館展示はサタケメモリアルホール・ロビーに展示用カラーパネルを展開し（年によって若干の変動はあるが概ね一〇枚）、各パネルの表裏面を利用して写真を展示してきた。

本年はカラーパネルを一二枚に増設し、裏表二四面のうち半数を例年通り「広島大学の歴史」展に、四分の一を「文書館新収資料」展に、残部四分の一を企画展に利用した。また可動式展示ケース二台を持ち込み、現物展示も実施した。

「文書館新収資料」展は今後も毎年の恒例展示とすることとし、展示の前年または同年に新規収集公開した資料の紹介を行うこととした。文書館では昨年〜本年と広島高等師範学校出身の作家・ジャーナリストである梶山季之の関係文書目録上下巻を刊行したので、本年は

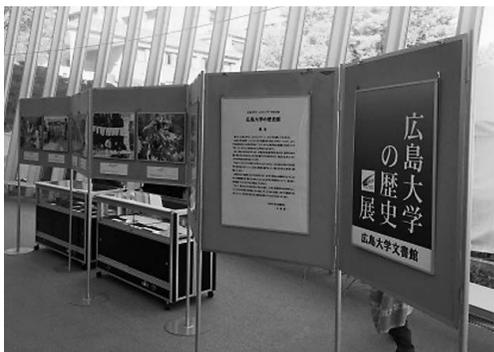
梶山季之関係文書の紹介を行った。カラーパネルに梶山季之関係文書の解説文・年譜・写真を掲示し、さらに展示ケース二台を用いて梶山季之関係文書の現物展示を行った。展示物の選定に際しては、

梶山の業績を象徴し、観覧者の興味を引くキャッチーな物を揃えることとし、生原稿・取材ノート・万年筆・愛飲の煙草などを展示した。

初代学長森戸辰男の生誕一三〇周年を記念した特別展は、「初代学長森戸辰男の書」展とし、文書館および関係者が所蔵する森戸の扁額二枚・色紙三枚を展示した。各時代毎に森戸の書を並べ、解説を加えることで、森戸の学者・政治家・教育者としての様々な活動や思想の変遷を辿ることができるように工夫した。



「広島大学の歴史」展②



「広島大学の歴史」展①

なお特別展については毎年の恒例展示とはせず、今後も特別の企画がある年に実施することとした。

### 今後の課題

今回は結果として狭い展示スペースに三種類の展示を並置する盛り沢山の内容になった。そのため、バラエティ豊かな展示となった反面、一つ一つの展示内容に若干の物足りなさが生じたことは否めないように感じた。特に「広島大学の歴史」展は、展示写真数が例年の半分になってしまった。現状の展示スペースでは、展示用カラーパネルの増設には限界がある。今後は「広島大学の歴史」展自体を年毎のテーマ展示として内容の密度アップを図るなどの工夫が必要となるかもしれない。

なお今回は展示ケースの運び込み等、例年の展示に比して準備・撤収の作業量が増大し、また現物展示であるため監視員を常駐させる必要も生じたが、学内関係部局と文書館事務補佐員・アルバイトの協力により滞りなく展示を終了することができた。記して感謝申し上げたい。

(たかすぎ ようへい・広島大学文書館)



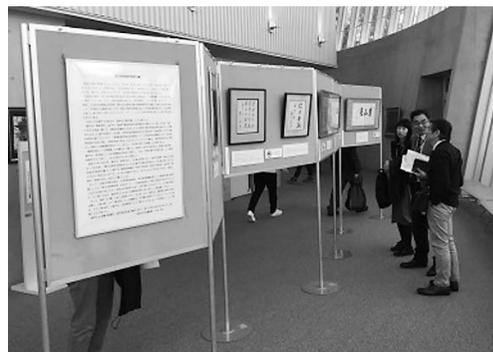
「文書館新収資料」展②



「文書館新収資料」展①



「初代学長森戸辰男の書」展②



「初代学長森戸辰男の書」展①